



からしだね

2019年6月号
(550号)

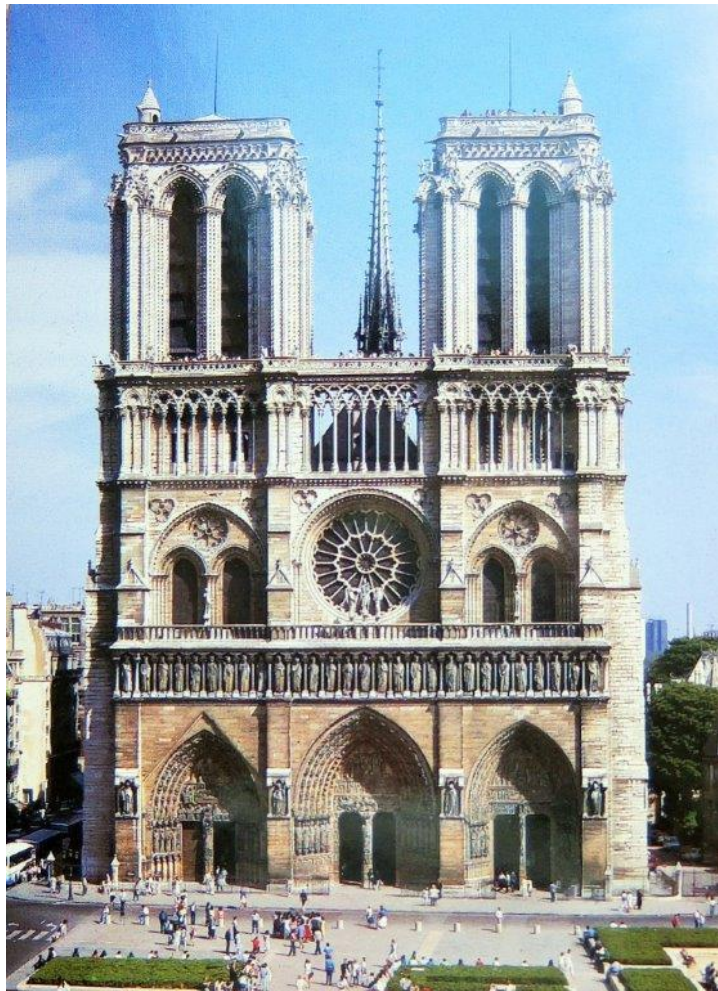
キリストの受難 カトリック池田教会

主任：ノノイ・プラザ神父

住所：〒563-0041 池田市満寿美町9-26

TEL：072-751-2400 FAX：072-753-4624

URL(ホームページ)：<http://www.ne.jp/asahi/catholic/ikeda/church/>



本号の記事の主題など

畠基幸神父の特別寄稿

「再びミヤウンミヤへ」

復活徹夜祭に受洗して

大人の日曜学校だより 4月28日

池田教会・日生中央教会合同黙想会

みんなの談話室

聖金曜日のハプニングと……

コンサート「あしたの風にのせて」

座布団がフカフカに

侍者任命式

年間カレンダーに追加された行事予定など

特別寄稿

再びミヤウンミヤへ

毎日が聖霊降臨の新たな日となりますように

畠 基幸 CP

聖霊降臨の喜びを申し上げます。教会の誕生の神秘を、イエスの死と復活の過越の時から聖霊降臨までの50日間の復活節で、イエスの残された言葉と行いを、使徒たちの働きを、思い起こしながら祝ってきました。聖霊降臨は、現在の教会に対する新たな派遣です。キリストの愛の賜物が皆様の上に注がれるように祈ります。そして、わたしも皆様から励まされて再びミャンマーに戻り、宣教の旅を続けてまいります。

3月下旬から4月上旬にかけて再びミヤウンミヤの地を訪れることになりました。ミヤウンミヤ市は、ヤンゴンとパテインの距離を底辺とする二等辺三角形の頂点の位置にあります。その間に、エイアルディー川デルタ地区の水田が広がり、枝分かれした大小の河川が幾重にもあり、今はヤンゴンからパテインまでほぼ直線に幹線道路がありますが、以前はパテインに行くためには、ミヤウンミヤを迂回していくか、船で沿岸沿いを往来するしかありませんでした。

そのミヤウンミヤへの道は、去年の4月1日に橋が崩落し、川を渡るためにフェリーボートを利用しなければなりませんでした(写真1)。パテイン市からは、車で2時間半ほどの距離ですが、フェリーボートの乗船に5時間ほど待たされました。朝10時半に出発して、到着したのは夕方7時を過ぎていました。モーリス神父とヘンリー神父の30周年記念の感謝のミサが終わってパーティが始まってい

ました。翌日の主日ミサの盛大なミサが行われるまえに、地元の教会の家族や知人たちのパーティが信徒会館で行われていました。二人の姿の看板やサイン入りのグッズがありました(写真2)。

3月の毎週の週末、叙階25周年や30周年、そして35周年の祝いが続きました。教区司祭と信徒が大勢集まって祝います。司祭はここでは大変尊敬され、家族の誇りです。

ここミヤウンミヤの聖心小教区は、町の中心にあります。広大な敷地に、カテキスタ養成学校と墓地があり、同時に食料用の豚小屋や鶏小屋、魚の養殖池があります。カテキスタ養成学校は2年制で、ミャンマー教会16教区全体から学生が集まり、教会で働く信徒を養成しています。高校を卒業して入学するので20歳までの青年男女が学んでいます(写真3)。シスターの修道院、学生たちの寮と校舎が同じ敷地内にあり、司祭館と教師の宿舎もあります。これらの基礎は、戦後、パリミション会の宣教師が作ったもので、校舎の前に大きな宣教師の像が飾ってありました(写真4)。聖心教会の聖堂は、正面に十字架のイエスの壁画があり、1000人ほど収容できる大きな聖堂で高い塔とレンガ造りの美しい教会堂です(写真5～7)。1965年献堂で、ミャンマーでは、この年から宣教師ビザは更新されず、植民地政府の滞在ビザを取得した神父だけが追放されずに居残れたのです。この宣教師も1985年ごろまで存命でした。殺害された二人



写真1. フェリーボートの乗船風景、小型のボートで車9台しか積載できません。



写真3
カテキスタ学校の生徒たちの踊り

写真2 モーリス神父とヘンリー神父の写真看板



の司祭と三人の修道女と一四二人の信徒の事件についての説明がミャウンミヤ事件の現場となった建物の壁に掲げてありましたが(写真8)、記念碑のようなものはありませんでした。この建物は現在も使われており、古いレンガ造りの二階建です。このカテキスタ養成学校は、三つの教区で運営しており、卒業生は教区で採用され、要理教育や典礼、青年たちの指導など幅広く活躍しており、結婚して巡回教会の管理人の仕事もしています。信徒のリーダーといったところでしょうか？教区によっては、600人、700人を超えるところもあります。一つの教区で数十人のカテキスタがいるのです。司祭館には、司祭でもなく、ブラザーでもなく、すごくあれこれ世話をしてくれる男性がいて、不思議だと思ったのですが、彼等は結婚して夫婦で司祭館の管理や世話をし、子育てしながら司祭の食事や生活面の雑事を引き受けていて、給料をもらって教会に奉仕している人たちなのです。戦争直後の日本ではカテキスタが活躍し、そんな風景があったなと思い出しました。都心部中心のヤンゴン大司教区は、カテキスタは90名ほどしかいないので、農村部の教区の特徴なのかもしれ

ません。

翌日の主日のミサには、朝早くから信徒が駆け付け、教会内に入りきれない信者たちが教会の周りにゴザを敷いて、そこでミサに与っていました。ミサが終わると早速御馳走の大パーティで、近隣の小教区のミサはどうなったのかと心配になるくらい、教区司祭の三分の一くらい(36名)が集まってきていて、信者も修道者も司祭も一緒に食事をしました。モーリス神父は、菜食主義者なので、菜食主義のテーブルコーナーが用意されていました。野菜中心の料理は、あまり辛くなく、食べやすい味だったのでたくさん食べることができました(写真9)。

戦場の傷跡から

この街の郊外、教会から30分の所にベンジャミン神父とセレスティン神父の「ミャンマーの聖母」という共同体の家と聖堂、孤児院と小学校があります。1965年にフランス留学から帰国したベンジャミン神父は、このミャウンミヤの聖心教会の助任として赴任しました。ビルマ国軍とカレン族の紛争の傷跡が生々しく残っていた頃です。ビルマ国軍は木を伐採し密林を裸にし、ゲリラ軍を掃討しました。多く



写真4
シヨン会
司教の像



写真7 聖堂の外観。高い塔も見える



写真5
の壁画
聖堂正面



写真6
00人を
超える
会衆
聖堂内には10



写真8 旧カテキスタ養成学校。1942年のミャウンミヤ事件の現場となった。

のカレン族の村々は紛争に巻き込まれ、家と男手を失い、広大な水田と子供を抱えて苦しんでいました。神父があるとき一人の孤児を引き取ると、次から次に子供たちを預けられたので、子供たちのための孤児院を作りました。そうするうちに、水田や山林を失った家族が集まってきました。そのため祈るたびに資金が集まり、跡継ぎのない水田や広大な土地を購入し、所有するようになりました。彼のその時からの夢は、森林を回復させ、人々の心の傷をいやすためにエコロジカルな持続可能な共同生活とメディテーションセンターを作ることです。教区司祭ですが自身は修道僧のような服を着て、行き場を失った30家族を引き取り一緒に祈りとミサで一日を始める共同生活を続けておられます(写真10)。彼の弟も司祭になり、貧しい農家の子供を引き受け、食事を与えて育てます。公立教育ではよい教育を受けられないと、自分たちで学校を始めました。その中の卒業生は、教師になって子供たちの世話をするために共同体に留まる者もいるそうです。高台から見ると、この地は、道もないジャングルの密林と水田の広がる豊かな土地が地平線のかなたまで見え

ます(写真11)。ここが病気と飢えで戦わずに数万の将兵が亡くなっていった終焉の地だと思つと涙がにじみ出てきました。東京大司教区は、戦災の焼け跡のなかから、ケレン大司教区が東京大司教区に自分たちの復興を後回しにしてでも支援してくださいとお願いしたために、年に一回ミャンマーの日を設けて、ミャンマーの教会に献金を送っています。その資金で大きな神学校が二つ建てられました。

ベンジャミン神父は、自給自足の生活をしながら、30家族と孤児を養うため、パテイン大学の近くに学生寮と英語学校を運営しています。ここに資金注入して日本語学校を併設しないかと誘われました。ヤンゴンには100を超える日本語学校が乱立していると聞きましたが、ここパテインには一校だけあります。日本語を教える資格を取るのも、簡単ではないし、教えるのはもつと難しいことでしょう。しかも、これはわたしや御受難会がすることではないので、企業家の志のある青年にゆだねたいと思いました。地味な仕事ですが、やりがいがあると思います。青年たちよ、大志を抱きましょう。一緒に僻地で働きませんか？



写真9 ミサ後の大宴会

写真11 「ミャンマーの聖母」のある地域の夕暮れの風景



写真12. ミサを司式するセレスティン神父とベンジャミン神父(手前)



写真10 聖堂前には孤児院の子供たちと共同体の家族

写真13 ナザレの森林学校の看板の前でNGOのオーストラリア青年とベンジャミン神父



復活徹夜祭に受洗して

洗礼を受けて

Y.S.

4月20日、ノイ神父様、通訳の皆様、そして、私たち入門者を支えてくださった皆様のおかげで洗礼、聖体、堅信の秘跡を受けることができました。多くの方々から祝福していただき、本当に良かったと実感しております。心より感謝と御礼申し上げます。

東京育ちの妻が信者でしたので、結婚式を本所カトリック教会で挙げたのがカトリック教会との出会いでした。(本所カトリック教会に中村神父がいらしたことを最近知り驚いています) 結婚後も時々、池田教会に来ては御ミサに預かり聖体拝領の時に頭を下げ祝福をいただいていた。洗礼を受けるまでの長い年月を要する中、何人かの神父様との出会いがありました。特にデニス神父様が一番記憶に残っております。自宅にも来ていただいたこともあり、とても、身近な方でした。また、ガブリエル神父様は、気さくで、親しみやすい方だったと記憶しております。最初に入門講座(カテキズム)のご指導をくださった国井神父様は、優しさの中に威厳に満ち溢れた方と、今も印象に残っております。国井神父様は入院中、ご自身が闘病で大変な中にあっても、私たち入門者のことを心配して下さり、どのように講義をすすめてらよいか常に考えてくださっていました。このような教会との繋がりもあり、70歳を迎える節目に信者になろうと決心しました。友人でもある箕面教会のH. H. さんが、代父を快く引き受けてくださいました。そして、1年間、入門講座(カテキズム)にも毎回一緒に参加して、アドバイスをしてくださいました。入門講座(カテキズム)がノイ神父様に引き継がれてからは通訳もしていただき、公私ともにお世話になりました。洗礼名のパウロも、多くの聖人の中から決めていただきました。

私は大学卒業後、46年間、障害児教育に関わってきました。カテキズムの中に「光」という言葉が多く出てきます。日本の障害児教育の父と言われる方が次のような言葉を残されています。「この子らに世の光をではなく、この子らを世の光に」です。本当にその通りだと強く思うようになりました。

今後、カトリックの教えを学ぶと共に、神父様はじめ教会の方々の導きで70歳からの人生が実り多いものになりますようお願いしております。

神様はずっと語りかけてくださっていた

ウィアトリクス I.T.

「神様なんておらん！ 宗教なんていらんことを、俺が証明してやるわ！」

2年前、勤務校・大阪YMCAで、担当する高校3年研究発表会テーマに「宗教」を選んだ男子生徒Y君の発言、これがキッカケでした。我が校は在籍生の約7割が不登校経験者で、中には大人に不信感を抱く生徒も。押さえつけても素直に聞いてもらえません。チャプレンの日本基督教団大阪教会牧師先生と相談し、やんちゃで元気系の彼が、どんな形であれ神様に興味を持ってくれたことを喜び、彼と正面から向き合うことにしました。

私も父も聖バルナバ病院生まれ。父方の祖母の実家がクリスチャンで、幼い頃の父は戦前、日本基督教団島之内教会に通っていました。妹はマリア幼稚園卒。勤務先は大阪YMCAと、こんなに近くにいたのに、向き合っていなかったことを反省し、まずはキリスト教を知ろうと行動を開始しました。

大阪教会の祈禱会と礼拝。浪花教会と西成教会の釜ヶ崎クリスマスボランティア。友人が教会員の大阪ハリストス正教会(東方教会)の勉強会や奉神礼、パスハにも参加。勉強も礼拝も楽しいけれども、まだどこかふんわりした気分でした。

そして、カトリック池田教会に。純粋に教派の違いを知りたかったことに加え、妹がデニス神父様にとてもかわいがっていただき、お迎えの私にも「お姉ちゃん」と優しく接してくださったことが心であり、池田教会にとっても親しみを覚えていたからです。土曜αコースと日曜のおミサに与るようになり、私の中で少しずつ変化が生まれました。とにかく居心地が良いんです。ここに居たい、と思うようになりました。

「カトリック」を意識するようになって、福岡と大分に単身赴任していた主人に会いに行く時も、おミサに行かせていただくようになりました。信徒発見150年を迎えた福岡県大刀洗町の今村天主堂。主人と2人で、長崎県佐世保市黒島天主堂に行き、耐震工事前のお御堂で早朝ミサに与ることもできました。2017年九州北部豪雨では、主人のアパートのすぐ近くの筑後川で大規模土砂災害が。九州キリスト災害支援センター(九キ災)夏休みボランティアに参加し、朝倉市で泥か

きもしてきました。

大分県中津市の中津教会は、神父様が大阪星光学院の元校長先生で、大阪を懐かしんでくださいました。たまたまお声がけさせていただいた隣席のご婦人が、なんと元池田教会員の方で…！これにはビックリ！デニス神父様や池田の話に花が咲きました。

昨秋、東京研修中に行った四谷イグナチオ教会のおミサでは、お説教で國井神父様のお話が出、スマホに録音されていた國井神父様の歌声を、お御堂のマイクを通して聞かせていただきました。

心満たされる経験やうれしい偶然が積み重なり、「神様はずっと語りかけてくださっていたのだ」と、やっと気づくことができました。

「こんなことがあったんだよ♪」うれしくて、Y君にも、私の体験を聞いてもらっていました。彼は「楽しそうやなあ。大人の祈禱会に参加してみたい」と言ってくれ、一緒に大阪教会の祈禱会に参加しました。牧師先生や教会員の方と真剣に話す姿に成長を感じました。勉強のこと、将来のこと、そして神さまのことも…。

発表会当日、Y君は最終話者として登壇し、保護者をはじめ大勢の聴衆の前で、堂々とした態度で発表してくれました。

「僕は正直、神様のことはまだ良くわからない。

けれども、神様を大切にしている人がたくさんいて、そのことを決してバカにしてはいけないこと。高校を卒業する前に、気づくことができました。お父さん、お母さん、ここまで育ててくれてありがとう。」

入学時はやんちゃな言動で、何かと大人につつかかっていた彼のこの言葉に驚くと同時に、心から神様に感謝しました。

今年もまた、新入生が入学してきました。小学校や中学校でしんどい思いをした生徒もいます。背負った重荷を無くす都合の良い魔法なんてないけれども、神様のもとで休ませていただけることを伝えていきたいと思います。

皆さま、どうぞよろしく願います。

洗礼を受けて

H.I.、M. M

不安もたくさんありましたが、洗礼を受けられて本当によかったです。

神父様はじめ、代父様、代母様や家族、関わってくださった方々に感謝の気持ちでいっぱいです。まだ分からないことだらけですが、どうぞよろしく願います。

大人の日曜学校だより 4月28日

「見ないのに信じる人は、幸いである。」

(ヨハネ20・29)

イエスの弟子たちは類型化できる。ユダが裏切り者だとすると、「イエスなんか知らない」と繰り返したペトロは弱虫の臆病者。では今日の福音に登場するトマ(ス)はといえば、これは「現代人」である。

仲間とは距離をおき、いっしょに復活した主を見ることがなかったトマは「隣はなにをする人ぞ」が身上の都会人みたい。孤独で疑り深い。仲間の言葉を受けいれず、「見ないと信じない」、「しるしがほしい」という彼の言葉は、過程ではなく「結果」を追い求めるいまの日本社会をそのまま言い当てている。

トマはわたし自身だと思ふときがある。神さまから遠ざかったときである。物事がうまくいかず、ひとへの不信を募らせ、頼れるのは自分だけだと思ってしまうときがそうだ。けっして好ましくない、このような現

代的信仰のあり方をまえに、主は「見ないで信じる」ように、と穏やかに語りかける。

いつかは見ないで信じる人間になろう。

研修委員会

池田教会・日生中央教会合同黙想会

指導 沼野 尚美氏

テーマ 「共に支え共に生きる」

沼野氏はホスピスのチャプレン・カウンセラーとして3000人以上の方々の生と死に関わってこられました。イエスさまの安らぎを運ぶ器としての私たちの使命を話してください。

日時 6月19日(水)

場所 宝塚黙想の家

費用 1000円(昼食代を含む)

申込み締切 6月9日(日)

申込は研修委員まで

研修委員会

みんなの談話室

聖金曜日のハプニングと 幸せを届ける「イースターエッグ」

T.K.

今年も喜びのうちに主のご復活を迎えました。聖金曜日には一寸したハプニングがあり、忘れられない聖金曜日となりました。こんな事も起きるのだと思い、私はそのハプニングについて書き残しておきたいと思いました。洗礼を受けて以来52年…初めての出来事でした。聖金曜日の受難の朗読が終わり、「十字架の崇拜」を行おうとした時でした。崇拜の時に使われる十字架上のイエス様のおん体がバキッと折れたのです！

受難の朗読には「安息日には遺体を十字架の上に残しておかないために、足を折って取り降ろすように…イエスのところに来てみると、既に死んでおられたので、その足は折らなかつた。」と書いてあるのですが、足ではなくおん体が、いきなりバキッと！居合わせた人達はみな驚きました。

しかし、その後のノイ神父様、稲葉助祭様、侍者君たちの落ち着きと連携プレーの見事だったこと！数分後に修復され何事もなかったかのように「十字架の崇拜」が出来ました。むしろ忘れられない思い出に残る聖金曜日となりました。

聖週間の間に、私はデニス神父様に教えていただいた「イースターエッグ」を作り、毎年親しい方々やご近所さんの一つずつ差し上げています。日曜学校で子供たちが作るイースターエッグには及びませんが、差し上げると皆さんから素敵な笑顔が返って来ます。これはデニス神父様に教えていただいた「おもてなしの心 = HOSPITALITY」なのですが、それを思い出して、今年も聖週間の間に40個ぐらい作りました。差し上げた皆さんが素敵な笑顔になられるので、私は「幸せを届けるイースターエッグ」と呼んでいます。

卵の模様が美しいからでしょうか、面白いエピソードがあります。ご近所の方々から「先ず仏壇にお供えます！」とよく言われるのです。私は啞然としながらも、大切に思ってくださいのお気持ちを嬉しく思います。



人々を愉ませたいと言うデニス神父様のおも

てなしの心が私に伝わって、それが他の人々にも伝わっているのです。やはり神父様から教わった事は大きかった。私は神父様のように、少しでも「幸せ=福音」を伝えるメッセンジャーになれますようにと日々聖霊に祈り続けています。

神に感謝！

コンサート「あしたの風にのせて」

5月18日(土)の午後2時から池田教会聖堂で、池田教会のディーヴァ、本田実千代さんのチャリティコンサートが開かれた。大勢の聴衆を前に、本田実千代さんは、日本のミュージシャンが作詞作曲した歌、黒人霊歌、本田さんの出身地である奄美大島にまつわる歌など17曲あまりを、情感たっぷりに、優しく豊かな声で次々と歌い続けられた。とくにご子息が作曲なさった曲を、歌詞をつけずに母音のみで歌い上げられたとき、本田さんの母親としての思いがあふれ出たように聞こえ、感動を誘った。なお、入場券代はすべて池田教会に献金し、耐震工事の費用の一部に宛てたいというご意向である。



座布団がフカフカに

4月のある日曜日のごミサに来てみたら、信徒席の座布団がフカフカになっていた。座ると腰が心地よく沈み、立ち上がるたびに座布団がずれることもない。座布団が古びてきたので買い換えたのかなと思っていたら、新しい座布団は数人の有志の方々が、大量のウレタンフォームをアマゾンで注文し、かぶせ布を吟味して選び、裁断し、ミシンで縫い上げて用意してくださったものだった。すべての座布団ができあがったところで、主日のミサに合わせて一斉に取り換えたのだそうだ。古い座布団は家庭的な雰囲気が漂っていたが、新しい座布団になって聖堂の格が上がったような気がする。ご奉仕、ありがとうございました。

侍者任命式

復活の主日に初聖体を授けられた子供たち6名が、一週間後の4月28日の主日、侍者に任命されました。ノイ神父様の祝福を受けたあと、祝別された白い侍者服を身に着けた新しい侍者6名は、緊張しながらも誇らしげでした。さっそく翌週からそれぞれの任務を立派に果たしました。聖母マリアさま、子供たちのためにお祈り下さい。

年間カレンダーに追加された 行事予定(6月30日まで)

6月2日(日)ミサ後 2019年度年次信徒総会
6月6、13、20、27日(木)10:30~ 聖書百週間
6月14、28日(金)14:00~16:00 福音書を学ぶ会
6月19日(水) 池田・日生中央合同黙想会

表紙の写真について

かつてのノートルダム大聖堂。去る4月15日夕刻、大聖堂屋根を修復中、工事関係の火の不始末から出火し、瞬く間に、大規模火災に発展した。聖堂の尖塔が崩落、直後屋根全体までもが崩れ落ちた。この火災の様子に、テレビの前で釘づけになった方も多いであろう。復活祭を控えた週であっただけに、心が痛んだ。早期の再建を祈りたい。

ノートルダム大聖堂(Notre Dame de Paris)はパリ大司教座聖堂。フランス語で「我らが貴婦人」すなわち聖母マリア様を指す。聖堂敷地はローマ時代より神域とされた処で、1163年司教モーリス・ド・シュリーによって着工され1225年にほぼ完成されたが、その後ファサードを構成する双塔の工事や改修を経て、竣工は1345年。フランス革命(1789年)時にも聖堂が襲撃されている。

広報委員会

宝塚黙想の家から黙想会のお知らせ

■ 日帰り黙想会

6月20日(木)10:00~15:30

指導:山内十束神父

6月21日(金)10:00~15:30

指導:山内十束神父



■ 週末黙想会 6・7・8月はありません。

各黙想会、費用等のお問い合わせは「宝塚黙想の家」まで。 ☎0797(84)3111

編集後記

「ところが、神は知恵ある者に恥をかかせるため、世の無学な者を選び、力ある者に恥をかかせるため、世の無力な者を選ばれました。」(コリントの信徒への手紙一 1:27)

少し前から、広報委員会のお手伝いをさせていただいています。信徒として、池田教会に貢献したい気持ちは持っていたものの、何のスキルもなく、「自分にできそうなことがない」と一步を踏み出せずにいた私ですが、ふとした縁で「からだね」の編集を一度お手伝いすることがあり、その後も継続して編集に参加しています。

広報委員会の仕事にはパソコンのスキルも要れば、原稿依頼など対人折衝も必要であり、自分には向いていないのではないかと思うこともしばしばですが、冒頭の聖書の一節にもあるように、そのような無力な私にこの仕事がまっとうできるのであれば、そこに神の力の働きを感じられるのではないかと考えています。

神の助けをいただきながら、少しずつ自分にできることを増やしていきたいと思えます。

パウロ

6月のガラスケースのことば

わたしは父が約束されたものをあなたがたに送る

ルカ 24・49